

件名： 燃料の取扱いについて

該当モデル： 全モデル

<要旨>

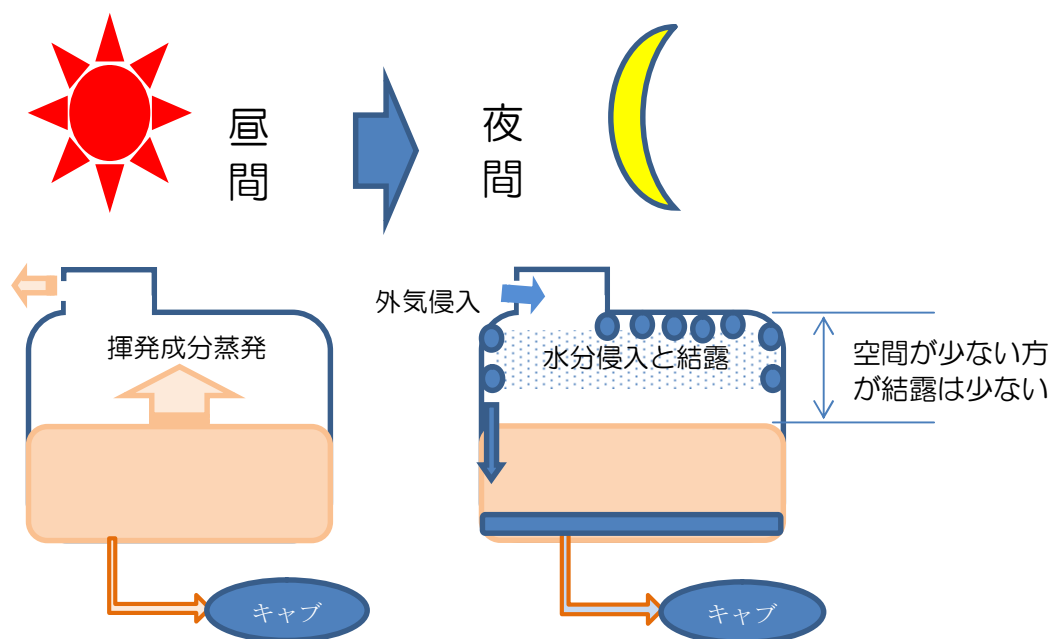
燃料の取扱いについてお知らせいたします。

昨今、可搬消防ポンプをご使用されている中で、燃料の取扱いによる始動不良の事例が多く挙げられております。

長期保管された燃料はガソリン成分の揮発や酸化により劣化し、始動不良の原因となりますので毎月1回は燃料を確認し、刺激性の臭いがする場合はすぐに新しい燃料に交換してください。

✓ 燃料タンク、携行缶内のガソリン劣化について

ガソリンが空気に触れることで揮発や酸化が進み、症状を引き起こします。タンク内に空気が存在することで空気内の水蒸気が温度変化により結露し水分による腐食を誘発させる恐れがありますので**タンク内及び携行缶内の燃料は常に満タンの状態を保ってください。**



✓キャブレタ内のガソリン劣化について

キャブレタは構造上、外気と通じる穴や隙間がいくつもあり、フロートチャンバ内のガソリンと外気を遮断することが不可能な構造となっています。劣化しますとキャブレタ内のジェットやノズルが詰まり、始動不良の原因となります。キャブレタ内のガソリン劣化を防止するためには、キャブレタのフロートチャンバ内の燃料を抜くことにより防止することができますので、**必ず運転後毎に燃料を抜いてください。**

※下記表は、燃料タンク内のガソリンとキャブレタチャンバ内のガソリンの劣化速度を表わしたものです。放置後、燃料タンク内のガソリンは数ヶ月、キャブレタチャンバ内のガソリンは数週間で劣化ガソリンへ変質しますので、タンク内の燃料は約6ヶ月毎に交換、またキャブレタチャンバ内のガソリンは運転後毎に抜くようにしてください。

